

和光市総合振興計画審議会第4回会議（安全部会）会議要旨

開催日：平成27年8月12日（水）午前9時30分～12時00分

開催場所：議事堂3階第2委員会室

出席者：金子正義部会長、柴崎幸夫委員、松田廣行委員、長野基委員、
藤川和孝委員、佐藤嘉晃委員

欠席者：富岡健治委員、泉常夫委員

事務局：川辺課長、前島課長補佐兼統括主査、工藤主査、遠藤主事

傍聴者：3名

次第：1 開会

2 議事

(1) 市民意識調査結果報告

(2) 総合振興計画基本構想中間見直しに反映させる事項について

3 その他

4 閉会

1 開会

2 議事

(1) 市民意識調査結果報告

事務局より、資料1「和光市民意識調査結果」、資料2「和光市民意識調査」に基づいて説明。

金子部会長： 市民意識調査の結果について、ご質問がありましたらお願いします。

佐藤委員： 「9 重点プランの取組についての満足度・重要度（1）」の「施策1 駅北口周辺の父区画整理事業を進める」で、棒グラフ右側の12.5という数値は何ですか。

事務局： 「わからない」と回答した人の割合です。

藤川委員： 今回の調査で新たな傾向は読み取れましたか。

事務局： 細かい分析は出来ておりませんが、住みやすさは徐々に上がってきています。市が行っている施策の方向性は間違っていないのかなと思います。重点プランの満足度に関しては、平成24年度と比較して、市民の意識に大きな変化はありませんでした。

佐藤委員： 前回と今回で3年しか経っていませんが、回収率がかなり落ち、2/3になっています。調査方法・調査時期・調査期間・抽出方法等、前回同様の条件で調査されましたか。

事務局： 調査方法・抽出方法は同様ですが、平成24年度の調査時期は8月中旬から末までで今回とは異なります。また、平成24年度は意識調査送付後に勧奨通知を送付しましたが、今回は予算の関係で送付しておりませんので、その点が回収率に影響したのではないかと考えています。

佐藤委員： 連休のある5月に企画したのはいかがなものかと思えます。調査条件は同様にする必要があります。回収率の変化については、意識が低下したのではないという理由をきちんと書いた方が良いと思えます。

また、和光市の3年前と現在で比較していますが、隣接区や隣接市と比べてどうか、どうすればいいのかという分析がありません。良い悪いではなく、藤川委員がおっしゃったように何らかの意味を見出さないといけないと思えますが、どのように思われていますか。

事務局： 即答できないので、精査させてください。

金子部会長： 回答できないようでしたら、ご意見については、是非参考にして、今後の市民意識調査にいかしていただきたいと思えます。

金子部会長： 「1 住みやすさ(居住地域別)」に参考値と書いてあるものは、なぜ参考値とされたのですか。

事務局： 地域名の右に(n=X)とありますが、Xが母数になります。母数が少ないため、参考値として掲載しています。

金子部会長： 「3 市に住み続けたい理由・市外に移り住みたい理由」について、「公益施設が充実していない」というのは何を指しているのですか。

また、「6 道路、公共交通の整備状況についての満足度」についてですが、道路と公共交通を一緒にして聞いています。和光市は鉄道の立地が良いので、道路と鉄道は分けないと、満足度を出した意味がないような感じを受けます。

事務局： 「4 市に魅力や誇りを感じる」ところでは、一番が「都内への交通の便のよさ」となりました。道路と鉄道については調査票作成時に分けるという意識がなかったため、区別せずに質問しました。

金子部会長： どのように聞くかは回答に大きく影響するので重要だと思います。

また、「9 重点プランの取組についての満足度・重要度」の「駅北口周辺の土地区画整理事業を進める」という項目については、「やや不満」の方が多いですが、駅北口の整備の何が不満なのでしょう。進捗状況が目に見える状態になってないのが理由なのか、土地区画整理事業そのものが不満なのか、理由がはっきりしません。

他の施策でも同様ですが、何が満足で何が不満なのか、この問いかけだけでは少ないのではないのでしょうか。重点プランとして掲げているのですから、もっと掘り下げる必要があると思えます。

佐藤委員： 北口整備の質問に関しては「事業を進める」ことに対する満足・不満足と聞いています。整備そのものに満足・不満足なのか、整備を進めることに満足・不満足なのか、見方が分かれてしまいます。どちらが聞きたいのでしょうか。

次の「施策6 道路(市道)の補修と計画的な道路整備を進める」についても、「道路の整備」であれば分かりやすいですが、整備そのものに満足・不満足なのか、整備を進めることに対するものなのか、答える側も答えにくいと思えます。

また、質問の仕方が誘導的になっています。「問4-2 公共公益施設が充実している」、「問5-4 交通の便が悪い」などとありますが、「充実している」、「悪い」

と入ると偏ってしまいます。「交通の便が悪い」と書かずに「交通の便」だけにして、判断は回答者に任せればよいと思います。

また、住み続けたい理由と住みたくない理由の両方に、「交通の便」が入っています。C Iハイツ周辺の人たちは皆交通の便が良いと言うでしょうし、河川敷付近になるとそうとも限らない。地区別に分析された方が良いのではないのでしょうか。

事務局： ご指摘のとおりです。今回の調査は終了いたしましたので、今後の参考にさせていただきます。別枠で設けている自由記載欄についても、貴重なご意見として今後分析していきます。

藤川委員： 自由記載欄のコメントは、市政に関心のある方の意見ですので、是非いかしていただきたいと思います。

藤川委員： 重点プランについては、質問を変えているのでしょうか。

事務局： 重点プランについては、平成24年度と同様の質問としました。

藤川委員： 実は私もこの調査に回答しましたが、質問があまりにも一般的過ぎるため、回答しにくいと感じました。聞き方を工夫する必要があります。

住みやすさの比率が3年前より上がってきており、歓迎すべきことですが、この資料ではなぜ高まったのか分かりません。きちんと分析できるように見直していただきたいです。

長野委員： 単純集計の回答者の男女比・年齢層の割合は、市の人口データと比較されていますか。

事務局： していません。

長野委員： 今回、勸奨通知を送付しなかったということは、市に何らかのアイデンティティを持っている人達が優先的に返事をしたと考えられ、調査母数と調査回答群の比率をみないと、回答をどこまで信頼していいのかわかりません。若い人の回答が少ないのではないかという懸念があり、50代から70代の持ち家を持っている世代は自分たちを否定することはあまりしないため、「住みやすい」と回答するのではないかと考えます。よって、単純集計で市全体の住みやすさを出してしまうのは危険です。

また、調査結果の仮説は前回もあったと思いますが、前回と今回の調査に対する仮説は同じでしょうか。

事務局： 前回平成24年度と今回の調査は同じベースで作成しました。ただし、基本構想策定時平成21年度とは違うものになっているため、今回と平成21年度の対比は難しいです。

長野委員： 今回は基本構想の見直し作業です。ベースデータが違うとなると、基本的な考えや調査としての見通しに留意して読んでいく必要があります。

最後に1点確認します。自由記述欄の大量の文章は、どのように分析し使用されていますか。

事務局： 今後、コンサルティングの方と話し合いながら行っていきたいと考えています。

長野委員： データは探さなければ出てきません。予想をメモ書きした上で解釈していく必要があります。

今回の回答では、今後を危惧せざるを得ない状況です。市にとっての課題となる候補をいくつか念頭に置いて調査すべきで、それが結果的に見直しにつながります。理想的な回答としては、「これとこれは市の危機に直面していると思うので、見直していきます」などと回答いただければよかったですと思います。

佐藤委員： 長野先生のご意見は「回答者が母集団を代表しているか」と言うことだと思います。仮に回答者の分布が人口分布と異なり、高齢者がすごく多かったとすると、そこにバイアス、つまりねじれが生じてしまう。ねじれが生じることは別によろしいと思うのですが、その部分を加味した評価をしなければいけないということです。結果に対する評価をしていかないと、統計そのものが一人歩きしてしまう、という話です。調査後の実態として本当は5割の回答が欲しかったが3割しか出てこなかった、とするならそこに解釈が入らないといけないということです。

松田委員： 回収率が悪いのは質問してる市側が考えてることと市民が考えてることに乖離あるということです。交通の便の良し悪しではなく、和光市の行政がどういう風に努力してるのか、何をやっていくのかが重要です。例えば、重点プランは何ですかという質問があってもいいのではないかと思います。衣食足りて礼節を知るという言葉がありますが、和光市の住む環境は充実していると思います。ですが、衣食住に無い欠けるものもあり、それをどうしていくかが課題です。最近では朝霞市で彩夏祭が開催され、花火によさこいにと市民の盛り上がりはすごいものでした。和光市でも市民の意見を募り、衣食住以外のものを重点プランの中に取り入れ、実現してほしいと思います。

柴崎委員： 今回の資料には、一部の意識調査結果は掲載されていますが、設問すべての結果は掲載されていないようです。何か理由があるのでしょうか。全体の結果を見た方が、市民の関心などが分かるのではないかと思います。

事務局： 本日は意識調査結果の概要報告のため、一部の結果を抜粋したものを資料として提供いたしました。すべての設問に対する結果をまとめた報告書はホームページにて公表しております。

金子部会長： 可能であれば、配付をお願いします。

事務局： これから準備し、会議中にお渡しします。

金子部会長： 皆さん同じようなご意見だったようですが、基本構想中間見直しとしてなぜ・何のために意識調査を実施したのかが大切です。回答については、人口比率・年齢別・男女別など、基本的な分類の元にデータを細かく分析、整理していただきたいと思います。

時間の関係もありますので次の議事に進みます。

(2) 総合振興計画基本構想中間見直しに反映させる事項について

ア 和光市の特徴（修正案）

項目「(4) 市民の多くは、住みよく、これからも住み続けたいと感じている」について事務局より、資料3「和光市の特徴（修正案）抜粋」表面に基づいて説明。

金子部会長： それでは質問を含めてご意見はありますか。

佐藤委員： 右側のグラフについて、質問の順に並べているようですが、なぜ回答の多い順に並べないのでしょうか。また、グラフの平成21年度と平成27年度の長さが随分違っています。平成21年度は1つで、平成27年度は3つまで回答できたのでしょうか。回答の形式が違うけれど並列させたいのであれば、平成27年度を3で割った数値にするのが良いのではないかと思います。

最後に、左側の文章の中で「5.6ポイント上昇し、更に高い水準で当市の2“住みやすさ”が表れています」とありますが、私の印象ではこの調査結果に住みやすさが表れているとは言えないため、「高い水準が前回調査より維持されている」というような謙虚な書き方でいいのではないかと思います。

事務局： グラフの訂正は多い順に並べ替え、長さについては見直したいと思います。また、表現の仕方については、ご意見を参考にしながら検討したいと思います。

金子部会長： 調査結果で内容的にあまり明確でないものについては傾向を書いていただく程度に留めたらどうかというご意見と、グラフは見やすいような形に精査していただきたいというご意見でした。

その他に何かございますか。

それでは次に進みますが、お気づきの点がございましたら、途中でも構いませんのでご発言をお願いします。

イ 和光市の特徴（修正案）

項目「(6) 市が重点プランとして掲げた施策に対する市民の意識」について

事務局より、資料3「和光市の特徴（修正案）抜粋」裏面に基づいて説明。

金子部会長： 資料3裏面「(6) 市が重点プランとして掲げた施策に対する市民の意識」について、質問を含めてご意見がありましたらお願いします。

佐藤委員： 「重点プランに掲げる取組に関する、満足度スコアと重要度スコアの相関図」について、提案がありますので説明させていただきます。参考資料として配付している図をご覧ください。

資料3の事務局案ではスケールが、重要度スコア0.0から1.8、満足度スコア0.3から0.5となっていました。私の提案は重要度スコアと満足度スコアの範囲は-2.0から2.0に書き換えています。また、0と0の交点つまり座標軸を実線で示し、4つの象限を明確にしています。要するに、図の一部ではなく全体像を見て、全体を議論すべきではないかと思い、提案しました。

また、基本構想の26ページをご覧くださいと、満足の人と不満の人の割合の差を指標としています。端的に言うと、重要度が平均より下にある項目は縦に分布しています。つまり重要度が低いものは不満な人もいれば満足な人もいて、バラバラに分布しているため、この表そのものが満足度スコアとなっていません。

重要度スコアと満足度スコアの範囲を-2.0から2.0に書き換えた表をご覧くださいと、満足度スコアと重要度スコアに右上45度の線を描くことができ、相関関係が見えてきます。重要度が高いものほど満足度が高くなっています。市民が重要度が高いと思われたもの、大切なものに対して市がやってきたことについては、市民が満足しているという文脈は読み取れると思います。

次に、満足度と重要度のどちらが重要かという、重要度であるというのが私の印象です。ですから資料1 市民意識調査結果の満足度と重要度については、左に重要度を書き、重要度の高い順番に満足度を表示することが、本来市という立場ならば有効ではないかと思います。

結論としては、問題整理のテクニックとしてそれぞれの意味を統計的に捉えることが重要だと思います。重要だけでも満足度が低いものについて議論すること、さらに、重要ではないところに施策があるならば満足度を上げる必要があるのか無いか、もしくは重点施策を差し替えるのか、そういう大局的な判断が総合計画の観点としては重要だと思います。

金子部会長： ありがとうございます。満足度スコアと重要度スコアの相関図であれば、その相関関係が実際に見えないと意味がない、また、重要度が満足度よりも重要というご説明もありました。事務局案と比較していただき、自由にご意見をお願いします。

佐藤委員： 良い方に解釈すると前回よりは、精緻になっています。前回は頭2つとお尻2つの割合を引いただけですが、今回は5つのランクに分け、一番は2点、次は1点・・・と計算しているため、少しは相関的な意味合いが出て、右上45度の流れが見えるかなという想像ができます。

長野委員： 議論の前提に反論するようで申し訳ないのですが、私は相関図という言葉を使用するのは反対です。資源投入量を上げればこっちに上がるという想定で政策設計しているものの成果をみているわけではないためです。だから単純に分布図でいいのではないかと思います。むしろ分類することに意味があるのでは、というのが一つの意見です。

その上で、現在見直しをするため議論をしていることを考慮すると、やはり市民全体のデータのグラフと、市が政策のターゲットとしている人たちに絞ったデータのグラフがある方がいいと思います。具体的には「高齢者」と対象施策が複数ある「子育て世代」です。正式に基本構想に記載していくかは別にして、議論の段階では複数のパターンのグラフを出し、取り直し・方向性がこれでいいのかという確認のために使ってもいいのではないかと思います。複数パターンを検討し、最終的に複数のグラフは掲載しないという判断だとしても、資料3左側の文章に「高齢者を抽出すると実はこうでした」などと、きちんと分析をしたと書いた方がいいと思います。

藤川委員： 重要度スコアと満足度スコアの範囲を-2.0から2.0に書き換えた表では満点の数字まできちんと表示されており、全体から施策はこの辺りに集まっているということは読み取ることができますが、資料3の部分的に抽出した表の方が施策間にメリハリがあり分りやすいと思います。例えば、駅北口土地区画整理事業については非常に満足度が低いというのが一目瞭然です。

- 金子部会長： 相関図を分布図と表現するという案についてはいかがでしょうか。
- 佐藤委員： 分布させた後、間に関係が見出せるときに分布図が相関図になります。市として何らかの意思を持たせるならば相関図、表を補正しないのであればとりあえずは分布図にしておけばいいと思います。
- 藤川委員： 普通の人が相関図の数学的な意味を理解するのは難しいのではないのでしょうか。分かりやすく分布図とすればいいのではないかと思います。
- 柴崎委員： 一般の方が見ることを考えると、分布図の方が分かりやすいと思います。
- 松田委員： もし相関図にするなら修正し、このままであれば分布図だと思います。
- 金子部会長： それでは、一般の方が見たときに分かりやすいように「相関図」を「分布図」に修正していただくように提案します。
- 長野委員： 資料3の文章を拝見しますと『一方で、最も低い施策は「施策1 中心市街地にふさわしい駅北口周辺の整備」となりました』とありますが、その次は『重要度が高く、満足度が低い項目は、一般的に今後、満足度を上げるため、最も優先して取り組む必要があると考えられ、この施策としては「施策6 安全で快適な道路の整備」、「施策3 2 多様な保育サービスの推進」が該当します』となっています。頑張りますと言っているのは施策6と施策3 2だけとなっていますが、施策1は満足度が1番低いので、1番頑張りますと言わなければいけないと思います。
- 金子部会長： 長野先生のおっしゃるとおりです。市の方で重点プランとして掲げていることを意識していただき、表で不利に挙がっている施策については表と文章が合うように配慮して書いていただきたいと思います。
- 金子部会長： 話は戻りますが、表については「分布図」に修正するという事でよろしいでしょうか。
- 藤川委員： 分布図でいいのですが、佐藤委員のおっしゃったように、0の線は追加した方がいいと思います。また、平均点は点線程度にし、縦と横にメモリを記載すれば視覚的にわかりやすいと思います。
- 佐藤委員： そもそも、この9つの施策の平均に意味があるのかが疑問です。全77施策の平均であれば、実は重点施策に対する評価が高いのではないかと解釈できます。つまり、基本構想26ページの表であれば平均を出すことは理解できますが、今回は重点プラン9つの施策だけなので平均を出す意味がありません。
- また、表の「満足度スコア」について、今回は文章の中で満足度スコアについて上段の文章で説明されていますが、今回は文中に「満足度」としか使っていないため、右下のコメントでもスコアを取らないと前回と同じような取り方をしていると誤解される可能性があります。言葉としては「満足度」にしておくべきだと思います。
- 金子部会長： 佐藤委員のおっしゃるとおり、「スコア」という言葉は不要だと思います。
- また、私としては図表に平均は必要ないと思いますが、皆さんどう思われますか。
- 藤川委員： 点線程度であればいいのではないかと思います。
- 佐藤委員： 点線で入れるか、あるいはその座標に●（黒丸）平均と書く方法もあります。
- 金子部会長： それでは、平均の表示方法については事務局にお任せします。

また、重点プランの中でも駅北口区画整理事業に対する不満が多く、一番点数が低いということですから、市の方で政策的に対応を十分していただかなければならないということだと受け取れます。文章については、ターゲットを絞って、それなりの表現にさせていただくようにお願いします。

他に何かございますか。

残り時間が少ししかありませんので次に進みますが、途中で思いついたら随時ご発言していただきたいと思います。

ウ 市民意識調査の結果を使用している施策等一覧

事務局より、資料4「市民意識調査の結果を使用している施策等一覧」に基づいて説明。

金子部会長： 最初に事務局に確認ですが、資料4について、事前に配布した資料を差し替えています。差し替え前は平成21年度と平成27年度の市民意識調査のデータですが、最新の資料では平成24年度と平成27年度のデータとなっています。基本構想は平成21年度のデータを用いているため、資料は両方使用した方がいいと思うのですが、いかがでしょうか。

事務局： 平成27年度の市民意識調査は平成24年度の調査を基本としています。平成21年度と平成24年度の調査は内容が変わっている部分があり、単純に比較できないため、資料は平成24年度と平成27年度のデータに差し替えさせていただきました。

金子部会長： 調査内容が同じではないという点は十分承知した上で話ですが、見直しの対象である基本構想は平成21年度の調査を前提として策定されています。策定時の平成21年度の調査と見直し時の平成27年度の関係を確認する必要もあるのではないのでしょうか。調査の方法が違って比較にならないという課題については、それなりに対応してみたいかと思っております。

金子部会長： それでは、施策1「中心市街地にふさわしい駅北口周辺の整備」について、ご意見を賜りたいと思いますが、先ほどから課題となっている年代等を補正していないデータを前提とするのは、信憑性の問題もあり、難しいですね。

松田委員： 出た結果は、そのまま出してしまっていると思います。そこからどうするのかを皆で考えていけばいいのです。

また、資料4の調査結果には小数点以下まで記載がありますが、細かくて読みにくいです。四捨五入して整数にしまった方が分かりやすいと思います。

佐藤委員： 数字を見てみると、不満が多いというのは読み取れますが、要は何が不満なのかがポイントだと思います。調査では「駅北口周辺の土地区画整理事業を進める」ことについて尋ねていますが、進捗度なのか、進める方向性のかなど様々な内容が考えられます。数値的には不満が多いけれども、それを解消するにはどういう処方箋があるってとこに全然たどり着かないという印象です。

金子部会長： おそらく市民は行政に対して駅北口周辺をきちんと整備してほしいと不満に感じ

ていると思うのですが、調査では「駅北口周辺の土地区画整理事業を進める」ことについてとしているので、事業が進んでいないことを不満とする回答者も出てきます。事業そのものに対する不満なのか、事業が進んでいないことが不満なのか中身が分からないため、「進める」という表現は避けた方がいいと思います。

佐藤委員： 事業のタイムスケジュールに見えない部分があるので、難しいと思います。結果を過去のアンケートなどに見比べて、特に施策にはこの部分の補強が必要じゃないかというのも一つの結論となるのではないかと思います。

金子部会長： 駅北口周辺の整備がどういう風に完成するのか、その部分が見えないから不満という人も結構いるだろうと思います。

佐藤委員： 駅北口土地区画整理事業については、ブラックボックス的な面があり、下手に触らないようにと誰も何も明言しませんが、市としては頑張って推進していただかないといけないと思います。

金子部会長： 長野先生はどのようにお考えでしょうか。

長野委員： 先ほどは、企画や場合分けの前にデータの補正が必要と申し上げましたが、基本構想の冊子を参照すると基本的に全部単純集計で記載しているため、このまま単純集計で比較すると決めるのであれば、それを脚注等で説明するという事で割り切ることも現実的な方法かと思えます。

ただし、例えば和光市で先進的に取り組んでいる高齢者関係の施策などについては、調査結果を対象の年代に補正して分析し、その施策の満足度が高いことをPRする材料にすべきだと思います。

金子部会長： 本来は補正が必要だと思いますが、別途データの分析について細かい配慮はお願いするとして、基本構想については今まで単純集計で記載しているということですので、注意書きを加えるようお願いしたいと思います。

事務局： 説明に単純集計ということに記載することについては、検討してまいります。

事務局： 市民意識調査結果の詳細について、資料が準備できましたので配付します。

参考に26ページをご覧ください。重点プランへの満足度として、合計、10代・20代、30代・40代...と年代別の満足度を記載していますので、こちらをご覧くださいいただければ市民の方にも年代別の結果をご理解いただけるのではないかと考えています。

金子部会長： ありがとうございます。限られた時間での審議となりますので、資料については改めて読ませていただきたいと思います。

金子部会長： 資料3に戻ります。

施策1について、事業を進めることについての調査結果は数字的に資料のように変わったということですが、これを記載することについて、ご意見はありますか。

事務局： 資料3については、調査結果がこうなりましたと説明した資料となりますので、これを直接施策に書き込んでいくということではありません。

金子部会長： 結果報告であるならば、我々が議論する話ではないように思いますが、いかがでしょうか。

佐藤委員： 今回の調査結果は前回の調査と比較して大きな変更やトレンドがなかったということであれば、事務局として、調査結果に変化がないということをはっきり説明すべきだと思います。

事務局： 調査結果については現在所管課に提示し、施策内容修正シートの修正を依頼しているところです。今回の中間見直しを含め、今後の施策の推進に活用してまいります。

金子部会長： それでは調査結果は今後の行政に反映されるということで、特に基本構想に反映することはないということでしょうか。

事務局： 必ずしもないということではなく、施策指標に調査結果を使用している場合は反映してまいります。本日は調査結果をご覧ください、新しい視点やアドバイスなどがあればいただきたいと思います。

長野委員： 資料3施策59「ごみ減量・リサイクルの推進」について、平成21年度は「ごみの減量化・資源化に取り組んでいない世帯」とありますが、平成24年度と平成27年度は「取り組んでいる」という言葉が変わっています。要はマイナスの調査からプラスの調査に変更しています。事情があつて変えたのだと思いますが、調査の前提はどのようなものだったのでしょうか。

事務局： 変更の経緯は分かりませんが、同じ質問で比較していただくために平成24年度の結果をお示ししました。

金子部会長： 特に申し上げるつもりはありませんでしたが、私自身は、「ごみの減量化・資源化」の意味が分かりませんでした。企業が行う場合というのは理解できますが、個人では何が減量化で何が資源化ということなのか不明です。

実際は調査内容に様々な疑問がありますが、時間をかけるのは申し訳ないので発言は控えます。

金子部会長： 結論として申し上げておきたいことは、せつかくの市民意識調査ですから、十分に分析して行政運営に有効に活用していただきたいと思います。

その他に何かございますか。

藤川委員： 施策62「中小企業の育成支援」についてですが、調査の選択肢に「個々の商店や商店街を充実させ、地域のブランドを作り出すことが大切である」とあり、結果は43.1%とあります。私は個々の商店や商店街の充実にウエイトを置いて丸を付けました。地域ブランドといわれても、曖昧で具体的なイメージが湧きません。調査結果で市外へ移り住みたい理由の上位が買物の便が悪いとなっているように、市民は地域ブランドより個々の商店や商店街を充実させることに重点を置き、その結果43.1%という高い数値となったのだと思います。

金子部会長： 藤川委員のご指摘のとおり、調査については内容を精査し、きちんと表現していただきたいと思います。

金子部会長： そろそろ終了時間となっていますが、その他に何かございますか。

最後になりますが、市民意識調査については調査の趣旨・方法などを記録としてまとめ、次の調査に引継ぐようお願いしたいと思います。

それでは、本日の審議は終了とします。ご協力ありがとうございました。

3 その他

次回開催の日程

事務局： 次回第5回の会議は、11月16日（月）午後1時30分から、市役所議事堂3階 全員協議会室にて開催します。

なお、以前お示しした平成27年度和光市総合振興計画審議会年間スケジュールでは1月に第6回会議を予定しておりましたが、第6回会議は開催せずに11月の第5回会議を最終の会議とさせていただきます。12月に審議会を代表して、花輪会長と泉副会長に市長への答申をお願いする予定でございますのでよろしくお願ひします。

4 閉会